

# 中国語普通話の「三級」説について

安 本 武 正

## The “Three classes” of Common language in Chinese

Takemasa YASUMOTO

### 一

小文は主として1986年1月の中国「全国語言文字工作會議」で、国家語言文字工作委员会主任劉導生氏が述べた『新時期的語言文字工作』（『語文建設』1986年第1・2期合併号、以下『新時期』と略称す）の中で触れている、いわゆる普通話（中国の共通語）三級説（以下「三級説」と言う）について、私見を述べるものである。

まず、三級説の内容を簡単に紹介して、これが持つ意義及びその問題点についての分析を行う。次に、その中でも特にこの三級説が、中国文字のラテン文字化に与える影響を考えてみる。最後に、この三級説が日本の中国語教育に、またどのような影響を及ぼすものであろうか、という点をも合わせて考えてみることにする。

### 二

劉氏が述べた百字足らずこの三級説は、仮にこれと拘わる部分のものを含めても、僅か全篇の十二分の一に過ぎない。また、この會議を記録したその「特集」の議論の全容を見ても、それ程問題視されたものではないようである。しかし、その後の陳乃華氏が記している『国家語委和国家教委連合召開「七五」時期語言文字工作規画會議』（同上第6期、以下『規画會議』と略称す）の内容を見る限り、この三級説は非常にクローズアップされ、今後の中国の文字改革

におけるその位置付けは、極めて重要な問題であると言っても過言ではない。

この三級説の問題点を分析する前に、手始めにその内容を簡単に記して置く。劉氏も50年代に定義された普通話の唯一の基準<sup>1)</sup>を肯定した上で、この三級説について次のような内容を述べている。(普通語の)第一級は、相当標準的な普通話が話せ、語音・語彙・文法などの面で誤ちが極めて少ない。第二級は、比較的標準な普通話が話せ、方言の訛りがそれ程強くなく、語彙と文法の面で誤ちも比較的少ない。第三級は、一般的な普通話が話せ、異なる方言の地域の人人に通用するもの。

以上のような三級説を打ち出した理由については、今世紀末までに四つの目標を達成するためであると述べている。その四つの目標というのは、次のようなものである。第一は、各級各種の学校には普通話の教学課程を取り入れ、普通話を教学の用語とすること。第二は、各級各種の機関では、その業務を遂行する場合には普通話を用いて、これを業務上の用語とすること。第三は、ラジオ（県以下の放送局とステーションを含む）・テレビ・映画・新劇などでは普通話を使い、これを宣伝の用語とすること。第四は、異なる地方の人人が公共用の場所で交流を行う場合、基本的には普通話を使用し、これを交際時の用語とすること。以上の四点は劉氏が述べたものではあるが、『規画會議』では、これらをそれぞれ「教学言語」「仕事言語」「宣伝言語」「交際言語」などの普通話と称している。

また、この三級説を提唱した根拠としては、現

昭和62年10月31日受理

\* 一般教育部助教授